

質問事項

- ◆学校教育
- ◆少子化

# 田代男

たしろ かずお 議員

## HSCが安心して 過ごせる教育環境を



**問** HSCが不登校になることについて、認識はあるのか。

**答** 先々のことまで考えを巡らせたり、ほかの子どもが叱られているのを見て自分も叱られているように感じてしまったりするなど、人一倍敏感な感性を持っているため、学校生活を送る中で疲れてしまい、不登校の原因になることもあると言われております。

**問** 教員に対するHSCの研修は実施されているのか。

**答** 県教育委員会からの資料などを基に各学校で研修を行っています。HSCに限らずさまざまな配慮を要する児童生徒への理解を深め、教職員が支援を行うべく研修の充実に努めています。

質問事項

- ◆学校給食費の完全無償化に向けて

# 根本義郎

ねもと よしろう 議員

## 「学校給食費の完全無償化」に向けて



**無償化対象となる児童生徒数および給食費はどのくらいか**

**問** 給食費無償化による地方交付税や国庫補助金、特に就学支援対象に係る影響はあるか。

**答** 地方交付税や国庫補助金については、特に影響はありません。

**問** 給食費未納世帯はどのくらいあるのか。

**答** 令和3年度の対象児童生徒数は104名、保護者数としては73名となります。

**問** 現行の「第4子以降」免除対象数および改正後の「第3子以降」の対象見込み数をお示しください。

**答** 第4子以降の対象人数は12名、保護者数では11名です。第3子以降については、現在、調査中ではありますが、児童生徒全体で約700名を見込んでおり、内訳としては、小学生が470名、中学生が230名です。

**「過疎債」の活用方策について**

**問** 「過疎債」を学校給食費に充当する場合の制約または条件はどのような内容か。

**答** 過疎債を活用する全事業の該当条件として、過疎地域持続的発展計画に位置づけ、その中に掲載をする必要があります。また、ソフト事業に活用する場合、市の財政力指数を鑑み、年度ごとのソフト事業全体に対する活用できる合計の上限額は3500万円という制限があります。

**少子化を止める対策を**

**問** 少子化の原因をどのように捉えているのか。

**答** 子育てに関する経済的負担や子育て中の孤立感・負担感、不安定な雇用環境など、妊娠・出産、子育てに希望を見いだせない状況が、少子化につながる最大の要因であると捉えております。

**問** 香取市が主催する婚活事業を復活できないか。

**答** 法的な過疎指定を受けたことなどの現状を鑑み、少子化対策および子育て支援策として必要な措置を講じるなど、鋭意対応してまいりたいと考えております。

**問** 佐原地区にも駐車場完備の子どもを遊ばせる公園を新設できないか。また、子どもが遊ぶ公園の草刈りの現状はどうなっているのか。

**答** 遊具など公園施設の更新を計画的に進めており、今後、公園利用者の利便性を高めるため、佐原地区の公園の駐車場整備についても検討していきます。また、公園の除草については、地元の方々にもご協力いただき定期的にを行っています。



わんぱく公園(北二丁目)

**「道路維持事業」のような小規模ハード事業に起債制限などはあるか。**

**答** 過疎地域持続的発展計画における項目ごとの起債の対象になると思われます。ハード事業においては、建物や道路など耐用年数に相違があることから、償却年数を勘案した起債の償還となります。



新たに策定された香取市過疎地域持続的発展計画